

午後 1 時10分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番桑野博明議員の質問を許可します。12番桑野博明議員。

（12番桑野博明君登壇）

○12番（桑野博明君） こんにちは、12番の桑野博明でございます。

一般質問 2 日目のちょうど中間でございます。大変お疲れかと思えますけれども、きょうは朝倉市にとって大変重要な事業であります新プラン21、これが成功するかしないかによって将来の朝倉がいかに繁栄するか、大変なことだろうというふうに思って、実はみっちり 1 時間かけて質問させていただきたいと思えます。

執行部におかれましては、明快なる答弁をお願いしまして、質問席より質問を続行させていただきます。

（12番桑野博明君降壇）

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） では、新プラン21事業について通告どおり質問させていただきます。

まず甘木町のまちづくりの経過、要は新プラン21に至るまでの経過を御質問したいというふうに思えます。これは昭和57年、甘木町活性化を図るために、振興会協議会にまちづくり研究会を発足したところから、この甘木町の活性化、新プラン21の前段であります土地区画整理事業のスタートだろうというふうに思っております。執行部のほうで平成12年の下水道事業重点施策とした塚本市政が誕生するまでの区画整理をどういうふうにしていったかというところをまず御説明をしていただきたいと思いますというふうに思えます。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（上野篤也君） 甘木町のまちづくりの経過ということで御質問ということでございます。

今、議員のお尋ねのように、昭和57年に地元甘木町振興協議会、現在のコミュニティ協議会において町の活性化を図るためのまちづくり研究会が発足されました。昭和58年3月に土地区画整理事業、市街地再開発事業によるまちづくり推進を決定され、土地区画整理事業調査に取り組み、その後、途中にいろんな面積の変遷はございますが、平成10年12月に13.5ヘクタールの都市計画決定をいたしたところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ありがとうございます。

まず甘木町自体の振興会協議会の中でいかに甘木町を活性化するかということで、土地区画整理事業、市街地開発事業がまちづくり推進にいいだろうということで決定をされて進んだというふうに認識をしております。その中で38.4ヘクタールで選定をしたんですが、

先行整備区域として、アーケードを中心とした13.5ヘクタールを都市計画決定をしたという流れだというふうに思っております。そのときの区画整理をするときの実はビジョンであるとか、目標であるとか、狙いであるというのがあったかというふうに思いますが、この平成11年の国の新規事業として採択を受けたときの事業の内容といたしますか、目標、ビジョン、狙いを教えていただきたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（上野篤也君） 今、回答させていただきましたことで、平成12年の7月に下水道事業を先行するということで前市長の誕生がございました。それで平成13年の3月に下水道事業を最優先事業として実施する、それから土地区画整理事業を5年間先送りする、そして平成17年に計画の見直しを含め再協議をするということで、甘木地区の下水道事業を重点的に進め、一部、道路の整備をすることが市の方針として決定されたところでございます。それで、今、回答させていただきましたことで、土地区画整理事業を行うことにおきましては、道路、公園、それから下水道の基盤を土地区画整理事業として一括整備をしていこうと、そういうふうなところでございます。その代替案の事業手法といたしましては、道路、公園、下水道、同じことではございますが、そういうところの手法を実施したということではございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 部長、答弁が先走っております。私は区画整理をするときの目標がどういう目的のために区画整理をやろうというふうに考えたか、国の指定を受けたかということの質問であります。わかりますか、もう1度、答弁をお願いします。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 御質問の趣旨が土地区画整理事業をどのような目標で、どのような視点で認可を受けたのかという御質問だと思いますが、当時の区画整理事業につきましては、戦災を受けない長い歴史のある町並みというのが、非常に細街路等で区画が不線形であるとかいう課題を解決するために、道路、公園、それから当時、課題でありました下水道を一括して整備するという計画のもとに認定を受けたというふうに考えております。この13.5ヘクタールに至る経過につきましては、甘木町全体の区域を含んだ検討もなされ、冒頭、部長のほうで申しました面積の変遷、それから区域の変遷等によって、本来であれば一括して町の都市基盤整備に合わせて、先ほど申しました、道路、公園、そのような都市基盤の整備を区画整理事業という手法で一括して行うというのを目指したというふうに理解しております。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 質問の仕方が悪いのかもしれませんが、要はそういった事業をや

ることによって甘木町がどういう、ちょっと商店街が活性化するとか、定住人口がふえるとか、そういうために実は公園とか道路を整備しますよと、それを区画整理の中で事業としてやっていきますよという、多分あったというふうに思うんですよ。何のためにというところを僕は聞きたかったんです。何でかという、実は何でここを念を押してるかという、昭和57年からそういうふうな構想がありながら、このプラン21という形になってきてるんですが、私はビジョンであるとか、狙いとかいうのが、ここ25年、30年、歴史が重ねてあるにもかかわらず、いろんな経済状況、いろんな人口減少であるとか、いろんな状況がかかわったとしても、多分、新プラン21の構想のビジョンは昭和57年に掲げられた区画整理の事業の目的と何ら変わらない事業をされてるような気がしたんで、私は念を押して、いま一度、御確認をしてるということです。多分、一緒だろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 今、議員がおっしゃいましたように、土地区画整理事業の基本的なまちづくりの考え方につきましては、先ほどちょっと漏れましたけれど、先ほど申しました市街地整備改善という都市基盤の整備と合わせて、商業等の活性化というこの2点が大きな目標でありましたということ、申しおくれましたがつけ加えさせていただきます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） はい、わかりました。念を押してるところであります。

平成12年に下水道事業を重点施策として塚本市政が誕生して、その年度の3月に下水道事業の優先である、それから土地区画整理事業を当面見合わせ、5年間先送りすると。大きな状況変化など予想されるため、計画の見直しを含め、平成17年度に再協議をしますよと。それから先送りの期間は、甘木地区の下水道を重点的に、一部の道路については暫定的に整備をしますというふうに3月に市のほうとして方針が決められておるようであります。

それから平成16年の2月には、土地区画整理事業にかわる別の手法によるまちづくりの推進と、地元主体のまちづくり計画案を提案、承認をしてあります。

平成17年には、地元のまちづくり推進委員会が主体となり、まちづくり計画案、要はプラン21構想案を策定をされておるといふふうに思います。

その年度の10月には、まちづくりの検討区域を46ヘクタールに拡大し、要は先ほど言いました区画整理では38.4ヘクタールでしたが、地元各種団体参加によるプラン21あまぎ協議会を組織して46ヘクタールに拡大をし、その年度の3月には、プラン21あまぎ協議会で検討を重ね、プラン21あまぎ計画案を協議会から朝倉市に提出をされております。そのときには46ヘクタールだったのが41ヘクタールに縮小されてるようではありますが、41ヘクタールの提案をされております。

ちなみに御確認なんですけど、38.4ヘクタールから41ヘクタールにするときに、きょうの午前中でも質問がありました旧の甘木バスセンターの周辺整備といたしますか、バスセンターをどうするかというのが、この地元各種団体参加によるプラン21あまぎ協議会の中では、この地域はバスセンターといたしますか、旧バスセンターの地域はこの検討区域に入ってたかどうか、確認をしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） ただいまの御質問は、現在取り組んでおります新プラン21計画の中の当初の検討時期には46ヘクタール、最終的には41ヘクタールの区域で決定をしておるところでございますが、御質問の趣旨は、そのプラン21の検討の際にバスセンター周辺等も含んでいたのかという御質問でよろしいでしょうか。プラン21の当初の計画時点では、13.5ヘクタールの区画整理決定がなされたエリアを中心に検討しておりますので、その13.5ヘクタールにつきましては、旧国道386号線、現在の福岡日田線の南側を中心に検討し、41ヘクタールという決定をしておりますが、冒頭、部長のほうは区画整理の検討の中で検討されたエリアとしては、この13.5ヘクタールに絞り込む前段のまちづくりの区画整理検討の38.4ヘクタールの中にはバスセンターも入ってたということを補足説明させていただきたいと思います。

以上です。

○12番（桑野博明君） 41に入っとったかどうか。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 41には入っておりませんでした。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） もう1度、言いますけれども、地元各種団体が参加したプラン21あまぎ協議会が組織をされて、検討区域を46ヘクタールに拡大をされましたと。46ヘクタールの中には、今、言うバスセンター周辺整備の区域は入ってませんでしたということですね、わかりました。

それから平成17年の3月には合併協議会がありまして、旧甘木に関しては、中心市街地の整備、それから旧朝倉では三連水車の里あさくらの整備、それから旧杷木町では原鶴温泉の活性化と観光振興を主体とするのをやっていきたいと思いますというふうに、合併協議会の中で旧甘木町の今後の合併に対する意気込みといたしますか、それからの事業を確認をされております。そういったところ、それから区画整理の代替でありますよということで、この新プラン21計画は朝倉市にとっても大変重要な事業であるということは確認をしているところであります。

実は平成18年の8月に、この土地区画整理事業を、要は中止にするかどうかというのを、朝倉市公共事業監視委員会に実は市長のほうから諮問をされております。答申では、中止に当たっては関係地権者への十分な説明をしてくださいよと、それから代がえ事業実施に当たっては、厳しい財政状況を勘案し、最大の効果を出すことですよというふうな答

申がなされておるようであります。

それから平成19年の11月には、朝倉市になって財政状況、それから実現可能な計画案として新プラン21計画に移行するんですが、まちづくり交付金事業をそれに充てていこうというふうになっております。今では社会資本整備総合交付金というふうな名前の交付金になっておるようですが、ここでお伺いをしたいんですが、5カ年ごとの3期計画で、この新プラン21事業は進められておりますが、終わりました1期工事の総事業費、それから、この社会資本整備総合交付金が何十%来たのか、それから、その残に関してはどういうふうな措置をして財源として事業をやったかというのをお伺いをしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） まず第1期、平成20年から24年度の事業につきましては、平成24年度の事業の一部を現在も25年度に繰り越し事業として進めておりますので、その分も含めて、まだ完成はしておりませんが、国の認可を受けた事業として、総事業費として27億8,710万円の総事業費で20年から24年度の事業認可を受け、その交付金対象事業費として受けた交付金は11億6,200万円、率にしまして全体事業費の41.7%、これはまちづくり交付金事業に始まりまして、現在、社会資本整備総合交付金事業になっておりますが、もともとの出発は全体事業費の40%に対して交付金を交付するという事業であります。1.7%ふえておりますのが、この全体事業の中で、現在のフレアス甘木、甘木地域センターの建設に当たりましては防災機能を持たせるということで、当時の交付金の中で防災機能を持たせることで5%の交付率のアップがあるということに手を挙げまして、地域センター事業費分については建設事業費の5%が割り増しで交付決定される、そのことを延べて交付金が全体では40%のところは41.7%で交付金をもらっているところでございます。

残りの財源につきましては、全体事業費の交付金を除いた残りの事業費に対して95%が合併特例債の借り入れ対象枠ということで、まだ事業実施の部分もございまして、理論上の財源内訳ということで御理解いただきたいと思いますが、合併特例債を15億4,380万円の借り入れで予定し、事業全体の財源としては残り自主財源を2.9%、8,130万円で全体事業ができる予定であるということで事業内訳を想定してるところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 先ほどの数字でいきますと、1期工事が大体27億8,000万円ぐらいかかるんじゃないかということですね。違いますね、27億8,700万円ぐらいかかって、交付金が11億6,200万円で、あとの分に関しては合併特例債と一般財源ですよ。合併特例債の分が交付税措置をされますので、最終的にはざっと計算して、市の負担としては全事業の20%が市の負担ですよということになりますよね。そうなりますと、総事業費が27億8,700万円かかりましたので、市の負担としては、市費としては5億4,400万円ぐらいは

市のほうからお金を出してるというような形に考えておるんですがよろしいですね。

実は交付金事業ですからということで、よく当時の塚本市長もよく言われてたんですが、実は交付金事業が丸々交付金じゃなくて、合併特例債も重要なこの事業の財源になってるんですよということを再度確認するために、あえてこの質問をさせていただきました。合併特例債が1期事業で16億円ですね、2期事業を計画をされましたが、その中で大体、合併特例債をどれぐらいの、60%だろうと思うんですが、60%弱ですね、でいくと、大体どれぐらいの合併特例債を財源として活用しようというふうに御検討されてるのか、まずお伺いをしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 2期事業の合併特例債の枠の想定額についての御質問ということでありますが、先ほどちょっと1期事業の内訳の中で、甘木地域センターにつきましては地元からの6,000万円の負担財源がありましたことを申し添えて、一般財源につきましては、その寄附を包含して市は負担してるということで御理解いただきたいと思います。

第2期の交付対象事業につきましては、現在、都市再生計画を策定中で、都市再生整備計画を策定し、国の認可を受けております、その事業につきましては22億8,300万円で現在考えております。これは総事業費です。先ほど申しましたように、社会資本整備総合交付金を40%充て込み、これが9億1,300万円、その残り財源60%に対して95%の合併特例債、これも枠として想定した場合、13億150万円程度を合併特例債枠として財源想定をしてるところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今、全体的な経過といいますか、甘木町のまちづくりの経過、土地区画整理事業から新プラン21に移行するに当たって、それから移行してからの財源としてはどういう形で財源を捻出してたかということをお質問させていただきました。最初の事業の中で、よく先ほども言いましたように交付金事業ですからという言葉がよく出ておりました。この分に関しては交付金事業なので、余り自主財源は余り使ってませんよということの意味合いを私は感じ取ったんですが、結果的にはやっぱり合併特例債並び自主財源としては60%ぐらいは実は捻出をしていたということをお伺いをしました。

では早速、早速といいますか、次の段階に行きますけれども、新プラン21計画のビジョンと目標について、目標とした根拠でありますか、新プラン21計画に関してはビジョンと目標があるかというふうに思いますが、まずそれをお伺いをして、その根拠となったのはどうしてビジョン、目標に掲げたかをお伺いをしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 新プラン21計画といたしまして、区画整理の代

替案として検討した当時のビジョンというものにつきましては、まずは区画整理13.5へクータルを中断するという先ほどの経過、その中で3つの視点でその区画整理事業を見直し、計画しております。その視点が、市街地の整備といたしまして防災性の確保、商業振興を狙いとした骨格的道路網の整備、次に商業等の活性化、これにつきましては、すぐに実行可能な段階的商業活性化策を盛り込む。3番目に早期実現化の検討ということで事業手法や既計画との事業費の比較、公共下水道整備等の整合性、財政上の妥当性の検討、これらを大きな見直しの視点といたしまして、新プラン21計画を策定したところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 1つ最初に聞きました区画整理のときのビジョンと目標、狙いと、実はこの新プラン21計画のビジョン、狙い、目標というのが、余りにも横滑りといえますか、歴史的古都であるとか、商店街等の活性化とか、現状であるとか、そういったところを踏まえずに、ただ単に目標並びビジョンのすりかえといえますか、横滑りといえますか、そういうふうに安易に捉えてるところはあるかというふうには思いますが、例えばここで昭和57年から今までになりますと相当な経費がかかっていると思いますし、17年に再検討しますよというのは、実情、現状が変わってきてるんで、再検討しますよというふうには実は区画整理を廃止するときにそういうふうな約束事になってるんですが、本当に区画整理をやめられたときに、17年度に本当に検討されたのかなと、商店街が今、どういう状況の中で、それから人口の年齢層等は、甘木町の人口層であるとか、人口がどういうふうに変化してきているか、減ってきてるかとか、そういったところを勘案しながら、このビジョン21のビジョンを掲げられたかなというふうには、大変、私は疑問に思っているところがありますが、その辺は十分に検討された上でのこの目標値、ビジョンであったかどうかというのを確認をしたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） ただいまの新プラン21計画を策定する際に、土地区画整理事業の時代から社会状況の変化等をどのように捉え、それを盛り込んだかという御質問かと考えておりますが、今、おっしゃいましたように、平成7年だったと思いますが、郊外大型店のはしりでありますジャスコの出店計画が7年にたしか発表されて、その後、ナフコインター店等、ベスト電器等、大型店の出店ラッシュが続きまして、ジャスコのたしかオープンが平成10年だったと思います。このような商業環境の激変、従来、甘木・朝倉における商業、商都という位置づけというのが、商業機能におきましてはかなり郊外にシフトしたということがございました。

この中でどのように区画整理を見直し、新プラン21につなげていくかということにつきましては、当時、大変議論があったと聞いております。最終的には中心市街地に集客ができるような大型店の出店を盛り込んだような商業振興策が、そのような郊外への大型店の

展開の中では、同時並行的には新プラン21の中で盛り込むことができなかつたというふうに聞いておりますので、その中での商業振興策は、やはり甘木町が従来持っております歴史や伝統、さらに個店が持つそれぞれの個店の商品の専門性等で商業振興を図っていくというようなことで、新プラン21は先ほど申しましたように市街地の整備として骨格的道路網の整備、それに伴って商業等の活性化につきましては実行可能な段階的な商業活性化という形で空き店舗の改装等を行いながら集客につなげていく、あるいは新しい出店につなげていくもやい広場の設置等、それ以降、並行して空き店舗対策を図りながら商店街の再生を図るというような手法を盛り込んで新プラン21を進めてきたところでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 済みません、今話を聞いてると全てがぼけてるんですよ。どこに力を入れれば、どこを変えていけばこれがどうなるかというのは、要は答弁聞いてても、ながら、ながら、ながら、ながらって、いろんなことをやりながら全部を変えていこうということなんです、どこに集中的に注げばどういうふうになるんだというのがないんで、多分、これは実際に甘木町の住民の方もビジョンというところは、僕は余り理解をされてないような気がいたします。明確に、例えば商店街の中でも、私が聞くところによると、大体3つの考え方、3つなり4つぐらいの考え方の方がいらっしゃるというふうに聞きました。1つは、アーケードを撤去することによって店を閉めてしまおうかなという方。それから自分はもう一生懸命、頑張ってきたけれども、あと四、五年頑張れば、私も隠居してもええのかなという方。それからもう2つは、もう若手に、息子に移行したので、今度は息子が一生懸命頑張ろうと、自分たちの町は自分たちで頑張ろうというふうに思ってる方。それから、あと四、五年すれば息子が帰ってきて、商店街なりお店を継ごうと、継いでくれるんじゃないかということで、それまでは頑張るところというような、実は4つぐらいの層に分かれるというふうに聞いたことがあります。その方にはいろんなことを言っても、おのおのの価値観が違うんで、ビジョンを言われても余りぴんこんというのが現状だろうというふうに思うんですよ。

ですから最初に言いましたように、区画整理のときに実はこういった狙いでやりましょうと、要は集積をして、商店街はここにつくって、ここに住宅地をつくって、ここに公園をつくりましょうというような要は区画整理をやろうとしたときと、プラン21に余り集積はできませんけど、今の現状のままで活性化することはどうしたらいいんだろうかというふうな考えでは、相当、僕は開きがあるんだろうというふうに思います。その辺はやっぱり事業を中心とされる市街地活性化のほう、担当が、やっぱりその辺の住民の方にいろんな御説明をさせていただきながら、最終的にこの事業が成功するかしないかは、市の役割も大切かもしれませんが、要は住民の方の協力なり御理解がないと、この事業は成功しませんよ、成功するために実はこういうふうに頑張らましょうということをやっぱり投

げかけていかないと、アーケードをとったらきれいになりました、じゃあ次もアーケードとりましょうという話だけ、それから救急車、消防自動車が入らないんで道を広げていきましょう、これは安心・安全のまちづくりのためには大変必要だろうというふうには思うんですが、ただそれだけで済むのかということになるかというふうに思います。先ほど買い物弱者という話が出ましたけれども、じゃあ自分たちの町の買い物弱者を、この新プラン21の中で解決するためにはどうしたらいいかというのを、やっぱり協議会なり、そういったところで協議をしていただくのが私は1つの方法だろうというふうに思います。それをいかに担当の職員さんたちが、いかにこの地域に入り込んで説明したり、御理解を得るかというのが大切な成功するためのキーワードになってるようなふうに思います。今の室長の答弁を聞きますと、何か全てのことをやらなくちゃいけないとか、やりましょうみたいな感じになってきてるんで、本当にどこをやったらどういうふうに変わるかというところを、やっぱり皆さんにわかりやすい御説明をしてほしいなというふうに思ってます。

第1期工事が終わって事業の評価をやりましたけれども、事業の評価の中の住民の意見というところが実はありました。ここを読まさせていただきますと、これは本当の住民の方の生の意見かなというふうに思って、大変率直に受けとめました。アーケード撤去と通りの整備は、予想以上に閉店、住宅に変化したところが多く、商店街としての連続に欠け、町の魅力減となっている。今後閉店する店舗が発生した場合は、店舗形態を残し、新規経営者が参入しやすい第三セクター的組織が必要と考えるとか。それから、要は期待するとか、可能性があるとか、自覚を持つことが必要であるとか、そういったふうに住民の意見は大変的確に僕は捉えられた、この評価だろうというふうに思います。これを見てると、じゃあこの事業が、本当に1期事業が成功するための足がかりになってるのかなというふうに実は思ってるんですが、この評価を、住民の意見なり評価を見たときに、担当課としては、じゃあ2期にはどういうことを頑張らなくちゃいけないか、どういうふうにしたらいいんだらうかということをお伺いをしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 市街地活性化推進室長。

○市街地活性化推進室長（井上 浩君） 新プラン21につきましては、先ほどから申しますように、市街地の都市基盤の整備、それと商業の活性化、大きな目標としてはこの2点を目指しながら事業を進めているところですが、都市基盤の整備につきましては、公共事業、道路、公園、地域センターの事業推進によって整備をされていきます。しかし、今、おっしゃったように、商業の活性化につきましては、そこに営業されてある方、あるいは、これから出店をされるであろう新規の参入者の方、そういう動きを期待する部分が大きくございます。その新規投資を促すその基盤整備として、この新プラン21は事業を絞り込んで事業をやってきたということでございます。今、御指摘のように、土地の所有者、あるいは現在、店舗経営をされてある方、あるいは未利用の土地をお持ちの方々、これらの方々の今後の動きが最終的な市街地の活性化を決定づけていく部分であると思っております。

ますので、まずは商業団体、現在の経営者の方々に現在の店舗のあり方等について商工会議所を中心に商品陳列の方法であるとか、基本的なところからアプローチをしてもらいながら検討していただき、今後、商業団体を通じて、現在、空き店舗になつてる店舗についての誘導を、情報発信をどのように行って入れていくのか、あるいは土地の所有者とのかけ合いによって、地域振興のために想定されてる地代や空き店舗の家賃等をもうちょっと考慮していただけないか、このあたりが最終的には活性化につながるか、つながらないかの大きな新規出店を促すポイントになるかとは思つてるところです。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 多分、これ課長のしゃべり方だろうと思うんですが、多分、議員もそうですが、傍聴されてる方もそうですが、多分、じゃあこの解決策は何だろうかというふうになったときに、今の答弁聞いてると、どこから手をつけたらいいっちゃろうか、どげんしたらいいっちゃろうかというのが実は感想だろうというふうには思います。ですから問題点はここにあるんですと、ここをこうすることによってこういうことが開けますよとか、こういうのが見えますよというような実は手法なり、そういったことをやらないと、一挙にできる話じゃありません、あれもこれも一挙にできる話じゃありませんし、一晩明けたら明るい世界が待つとるわけでもありませんので、ぜひその辺は答弁もそうですが、そういった手法でやっていただきたいというふうには思います。

いろんな1期工事の反省点もあったかというふうには思います。実は甘木町以外の方がこの新プラン21のことをどういうふうに言ってるかというのは、率直に言いますと、あの甘木町に3期計画で15年で60億円から70億円かけてこの事業をやるげな、じゃあ果たしてじゃあどげん変わるっちゃろうか、余りばつとせんっちゃねえなというのが実は私が聞いた甘木町以外の方の実は感想でした。実はこれはこうこう、こういう事業のもとにこういうふうにやってるんですよという御説明はしたんですが、やっぱり余りにもハード事業が目立ちすぎて、ソフト事業、要はまちづくりであるとか、そういった事業が余りにも目立たない。ですからアーケード壊して新しい道をつくったら活性化できるとなち言われることがあります。ですから、ぜひその辺は1期工事で、多分、1期工事をしたからすぐ答えが出るというふうには思いませんけれども、1期工事の積み残しのソフト事業、要は通りの協議会をつくってありますけれども、この通りがこういうふうにきれいになったら、ここでこういうふうに活性化ができますよというような協議会になればいいというふうには思っております。この道はこういうふうにつくりましょうという通り協議会よりも、この道がきれいになったらこういうふうに活性化しましょうという通り協議会に実はつくってもらいたいなというふうには思います。

それから2期工事の最大の目玉というのは、私は甘木中央公園だろうというふうには思います。この中央公園をつくったときに町がどういうふうになるか、住民の方がどういう

ふうに安らぎを求められるかどうかというのが大変重要なことだろうというふうに思っております。2期工事始まりましたけれども、ぜひこれが成功することは大変重要な、この3期目につながるだろうというふうには思っております。

何で3期目がどうこうというのは言うんですが、先ほどの計画で言いました、合併特例債が60%ぐらいを実は合併特例債で使っております。合併特例債は平成32年が最終年度だろうというふうに思います。実はこの3期事業は平成34年度までなんです。となると2年間ぐらいは合併特例債が使えないんです、使えないというか余ったたら、余ったたらというか、実際もう過ぎたら使えないんです。さっき言った60%、自主財源になりますと、丸々合併特例債じゃない借金の仕方なり、自主財源が必要になってくるかと。これはぜひ2期工事が終わった段階で、ぜひこれは3期やらなくちゃいけないということまでにしとかなないと、私が議員だったら、いいんじゃない、2期でというような気が私はいたします。ぜひ3期が必要ですよというところを、この2期工事の5年間の中でやっとなかないかん。それは1期工事の積み残しのソフト事業、それと2期工事の甘木中央公園をどういうふうに活性化して、どういうふうに利用していくかということだろうというふうに思います。

ぜひその辺を今後の課題というふうにさせていただきたいんですが、いかに平成20年の4月に塚本市長がこの甘木まちづくり計画の新プラン21計画の中で言われてる言葉があります。何としても成果を上げる、成功しなければなりませんと、この事業は。行政の力は言うまでもありませんが、その鍵となるのは地域の皆さんの中心市街地活性化に向けた熱意と参加にかかっていますという言葉が当時の塚本市長の中であります。ぜひこれは地域住民の方にぜひその辺はやっとなかないと、先ほど言いました交付金事業でやってますよと言ってなんですが、大事な合併特例債、もう60%ぐらいは使ってるんですよということをぜひ皆さんに認知していただいて、住民の方の当事者意識をやっぴり高めていただいて、この朝倉市が20年後、30年後、いい町になるか、いい都市になるかというのは、この新プラン21事業がキーになってるんですよということをぜひ皆さんで訴えていただきたいと思いますし、それを事業をやっていただきたいというふうに思っております。

この事業に関して、本通り商店街では来月から、7月から毎週金曜日ですか、イベントをやるということで、実はこういった事業をされてる方でもやっぱり当事者意識を持って頑張ってるという団体もありますし、そのおのおのおの店も、やっぱり魅力ある店をつくらないとお客さんは来ないんだと。ある方が言われたんですが、ワールドカップを日本が進出決定した翌日に選手のインタビューがありましたけれども、その中で本田圭佑選手が言った言葉が、日本人はチームワークというのはもともと持っていたものであると。これからは個が頑張らないかんということ。実はその方が言われたのは、もうしみじみあのインタビューを聞いてるときに、自分につくづく感じましたと。商店街、商店街と言っとるけれども、実は私の自分の店がどげんせないかんかというのを、個が頑張らないかんかとよいうことをしみじみと感じましたということを聞きました。ぜひそうだろう

というふうに思っております。個の部分に関しては行政がどういうふうにするか、ああするかというのは大変難しい、例えば陳列の方法とか何とかというのはありましたけれども、それはなかなか難しいことだろうというふうに思いますけれども、そういうふうな動機づけであるとか、そういった方法案であるとか、そういったところはぜひ行政がリーダーシップをとっていただきたい。それから区画整理とは違って集積、要は集めることがなかなか難しいとは思いますが、ぜひこれは集積をやっつけていかななくちゃいけないことだろうというふうに思っております。

これは多分、新聞見られた方、いらっしゃると思うんですが、宮崎県の日南市でテナントミックスサポートマネジャーというのを募集しましたということで、実は福岡県的那珂川町の方が実は採用決定されました。ちなみに月収90万円らしいです。この方にはどういふことを望んでるかということ、空き店舗の活用の検討であるとか、業種バランスであるとか、企画をするとか、そういったこと、実はしてるんですが、例えばノルマがあつて、20店舗でしたか、新規店舗が20店舗しないといけませんよとかいうのがありました。それともう1つあつたのが、これはいいなと思つたんですが、居住しないといけませんよと、日南市に居住していただきますという条件がありました。じゃあこの日南市の中心市街地活性化基本計画というのはどういうことだろうかということ、実はホームページで調べてきました。実は本当に人口が5万8,000、それから面積が朝倉市より相当広いんですが536キロ平米、それから平成21年の3月に合併をいたしております。先ほど午前中の質問でもありましたけれども、この計画の中でおもしろいなと思つたのが複合機能ビルの建設を大々的にやってらっしゃいます。これは面積、要は土地を集積して、そこにクリニックモールの要は病院をつくれますよと。それから子育て支援をするところ、高齢者と子供の交流ができる施設を同居させますよというような複合機能ビルを建設をしたいということでした。その上には居住住宅をつくれますよということでもあります。ぜひ私はこれはプラン21の中でも、新プラン21の中でも公園の横に居住できるようなビルが建つて、その1階にスーパーマーケットができて、2階に病院ができて、介護施設ができてとか、保育所とかファミリーサポートセンターみたいなのができてとか、そういうのを考えると、ぜひそういったところは実現できるんじゃないか、要はやったらいいなというふうに思っております。日南市も同じようなことを考えられてますし、同じように困つてらっしゃるようでもあります。

それから、もう1つあつたのが、埼玉県の秩父市にみやのかわ商店街というのが実はあるらしいです。この商店街は空き店舗がゼロらしいです。これは週に1回、必ずイベントをやりますよと。去年と言われたかな、去年、要はこの商店街の理事とか役員さんが世代交代しました、理事長さんが40歳ぐらいの方だつたと思つます。もうおやじの代から息子の代にかつわりましたということでした。700種類ぐらいのイベントの企画を今までやられたそうでもあります。全部自分たちで考えたことらしいです。雨の日でもやりますというこ

とが有名らしいです。ぜひそういった企画があれば、本当にこの商店街なり、甘木町の住民の方が住みよい安心・安全なまちづくりができるかというふうに思います。ぜひ激励並び協力をしたいというふうに思っておりますので、今のままじゃいかんですばい、絶対いかんと思います。ぜひ頑張りましょう、頑張りたいというふうに思います。

じゃあ最後の質問です。これはもう副市長にお伺いをします。外から見た朝倉市のいろんな政策があるかというふうに思います。これはプラン21もそうなんですが、いろんなまちづくりをやってるんですが、いろんなところの連携がとれてないために、ちぐはぐした実はプランなり計画が私はあるように実感しております。単刀直入に外から見たときに朝倉市がどうなのかというのを、その辺を連携とかいうのを主流にお答えをいただきたいんですが。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） お答えいたします。

午前中の答弁でもお答えしましたように、私、よそ者の視点という目で見させていただきたいと思っております。議員御指摘のとおり、この第2期、大切な時期であるというふうに考えております。この甘木地区の整備につきましても、事業実施によりまして新しい町の形があらわしつつあるというふうには考えておりますが、都市基盤の整備というハード面、それとソフト事業については、中心市街地活性化のいわば車の両輪であるというふうに捉えております。ソフト事業につきましては、そういった地域住民の方々の御意向、そして主体的に取り組んでいただくということが不可欠だというふうに考えております。

これまで第1期におきましては、例えばハナミズキを育てる会ですとか、コミュニティ協議会、商店街といたしましても綱引き大会ですとか、甘木絞り体験、そういったものが取り組みございました。ハード整備に合わせた相乗効果を生み出すようなソフト事業が取り組まれてきたというふうに考えております。

今後、第2期でございますけれども、特にプラン21あまぎ協議会の母体であります甘木地区コミュニティ協議会、こちらのほうとしっかり目的意識、こういったものを共有をいたしまして、関係団体と知恵、工夫を出し合いながら、また、今、市のほうで進めております地域コミュニティ活動支援事業ですとか、共同提案事業、こういったものを積極的に活用していただけるような、そういった後押しを継続したいというふうに考えております。そのためには私ども市役所内部でも市街地活性化推進室だけではなくて、商工観光課ですとか、あるいはふるさと課、こういった関係の課ともより一層連携を深めて、先ほどおっしゃいました他の市町村における取り組み、こういったものもしっかり研究していきたいと考えております。

この甘木の中心市街地活性化につきましては、申し上げておりますような行政が進めます都市基盤整備、これを呼び水といたしまして民間の投資がうまくかみ合って、そして未利用地への投資とあわせて、また地域の皆様には交流施設の拠点でありますフレアス、こ

ちらを積極的に活用いただきたいと思います。第2期の中では、先ほどおっしゃいました甘木中央公園、これと連携したイベント、もちろんこれは一過性のイベントではなくて、継続してまちづくりに結びついていくような形で、住民の皆さん方との協働、こういったものでさまざまなアイデアを出し合っていて、3世代、親、子、孫のにぎわいが生まれてくると、そういった甘木の中心市街地の姿を思い描いているところでございます。

以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 大変100点満点のお答えだったというふうに思います。

いろんな事業が朝倉市、やっとなるんですが、要は先ほど言いましたように、例えば甘木町のことにしてもそうですが、新プラン21事業の中でもあります、例えば322のバイパスをどうするかとか、例えば市長は余り言われませんが、この庁舎をどうするかとか、例えば322のトンネルができたときの観光客をどういうふうに取り込んでいくとか、実はいろんな意味で連携してるというふうに私は思っております。おのおのの事業が単体で進むことなく、連携したような形の中で事業が進まない、私は朝倉市が繁栄しないというふうに思っておりますし、ひいてはプラン21が達成される、成功するようなことを望んで私も努力をしたいというふうに思いますので、ぜひ頑張っていきたいというふうに思っております。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午後2時10分休憩